

2016 年度「研究者の横顔」 村松 正道先生

1. 研究者になろうとしたきっかけ

小学生の頃から研究者になろうと考えていました。昆虫が好きだったからです。その後、興味の対象が、虫から医学になり、今に至っています。

2. 助成研究の内容紹介

我々を病原体感染から守る免疫系には様々な防御システムがありますが、私共の注目しているのは APOBEC という酵素です。ゲノム DNA には遺伝情報が格納されていますが、APOBEC はその DNA に作用し、配列を変える力があります。APOBEC はウイルス DNA に作用し、ウイルスのゲノム情報を破壊することでウイルスの増殖を防いでいます。しかし APOBEC の抗ウイルス活性が、もし我々自身に間違っただけで向けられたらどうなるだろう、それは発ガンの引き金を引くのではないか？ そういう可能性を私達は調べています。

3. 2 の将来に繋がる結果予想・目標

もしその可能性が正しいなら、APOBEC の活性を適切にコントロールする事で、ガンになる確率が下げられると思います。まずはこの APOBEC の活性と発ガンの関係性をはっきりさせたいと思います。

4. 全国の RFL 関係者に一言

すぐには目に見える形になりにくいのがこの研究ですが、地道に一步一步前進していくことで、いつかはガンをコントロールできる世の中が来るのではないかと信じて研究しています。